



独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
泌尿器科医長 橋根勝義
このコーナーは松山市医師会の協力によるものです。

元気でいたいから 診療室訪問



—前立腺がんは増えています。早期発見が重要です—

日本は、現在、2人に1人ががんになる時代になっています。がんの中でも前立腺がんは特に増加しています。2010年の男性がんの中で前立腺がんの罹患（りかん）率（発生率）は第3位ですが、2020年には胃がんや肺がんを抜いて第1位になると予測されています。この原因は、社会の高齢化と生活の欧米化によると考えられています。

前立腺がんの場合、初期は無症状で経過するため、症状だけで発見するのは不可能です。「症状がないのにどうやって発見するの？」と疑問に思う人もいるかもしれませんが、前立腺がんの場合、非常に優れた血液検査があります。PSA（ピーエスエー…前立腺特異抗原）と呼ばれる腫瘍マーカーで、前立腺が

んの場合、数値が高くなります。そのため、前立腺がんの疑いのある人を血液検査のみで発見することができません。このPSA検査は、愛媛県内の各市町村でがん検診として受けることができます。

早期前立腺がんの治療はさまざまです。手術と放射線治療が代表ですが、手術も年々進歩し、開腹手術から腹腔鏡下手術、最近ではロボット支援手術が可能になりました。また、放射線治療も外照射のみでなく、組織内照射もあります。また、PSA監視療法といって、すぐに治療はせずPSAで前立腺がんを監視するという方法もあります。50歳になったら前立腺がん検診を受け、早期発見に努めましょう。